

95
謹みて一筆申上げ候

去ぬる一月廿四日の日曜に私
の出席致し、教会にて例の

如く聖書の朗讀これあり

候處

其の刹那

「此の聖句を大隈伯に
と直感致し候

此の聖句とりたて、長しと
には候はず又おこがましけ

れど神の沛教の道にある

身の今日迄聖書を通讀

致し、事はあまた度、此の句

とて或は考へ或は學び侍り

し事も幾そ度、さるを此の

日この時に限りて斯くばかり

意味深く感じ候ひは、いか

なるはづみに候ひしか其の

日この時に限りて斯くばかり
意味深く感じ候ひは、いか
なるはづみに候ひしか其の
ことわりは斯く申す身も
知り侍らず唯、総てを知ろ
し召し総てを司り給ふ我等
の父のみさしづのまゝに、此の大
沛代に生れきて重き役儀
に在ます君に此の聖句を
捧げまつるにて候(ヨハネ第一
書五章一節より十三節まで)
なほ此の一卷の聖書沛心静
かなる折こに繕き給はゞ之
に上越す喜びは沛座なく
候

かしこ

大正四年二月六日

ミネピールボールス

伯爵

大隈重信閣下

95
半込区早稲田

伯爵大隈重信閣下

御直披



二月十八日

英区三田功運町

世

ミネビーホール